

## 工事事故(速報)の情報提供について

工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところではありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事故が発生しました。

各事務(管理)所の工事現場において、このような工事事故が再び発生することのないように工事事故概要を皆様にお知らせいたします。

本資料を活用し、受注者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願いいたします。

### 【工事事故(速報)発生状況】 (H24.10.31現在)

	10月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成24年度(今年度)	14件	52件	1人	17人
平成23年度(昨年度)	7件	74件	1人	19人

注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事故発生件数(速報)を示す。

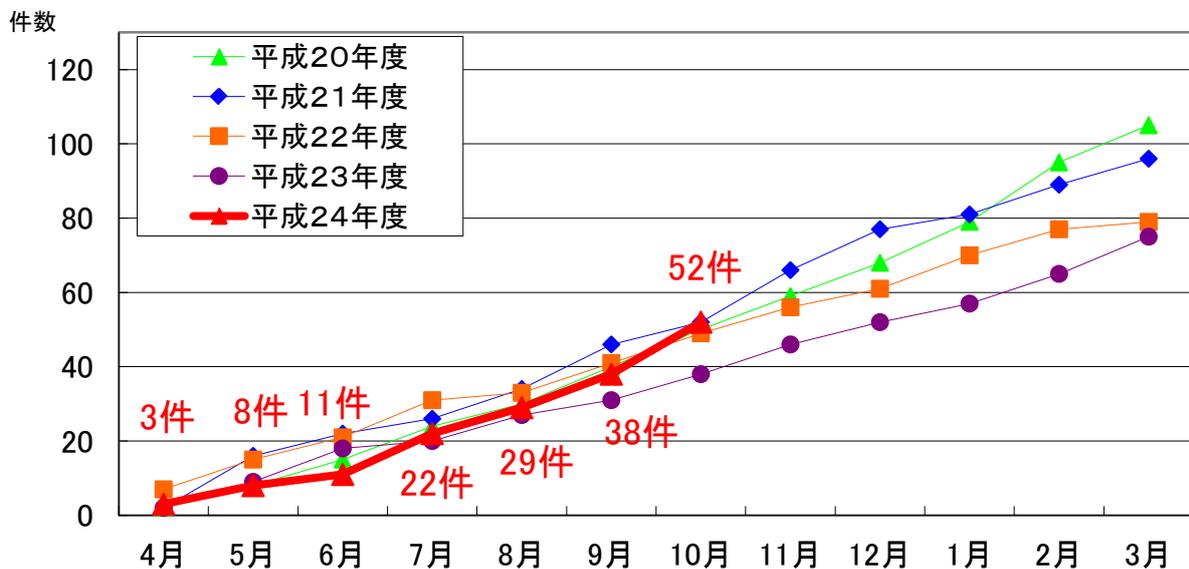
注2) 「10月発生件数」は、10/1～10/31の間に起きた件数。(月毎分)

注3) 「累計件数」は、4/1～3/31の間に起きた件数。(累計分)

注4) 「死亡者数」・「負傷者数」は、4/1～3/31の累計人数を示す。

注5) 平成24年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

### ●工事事故件数



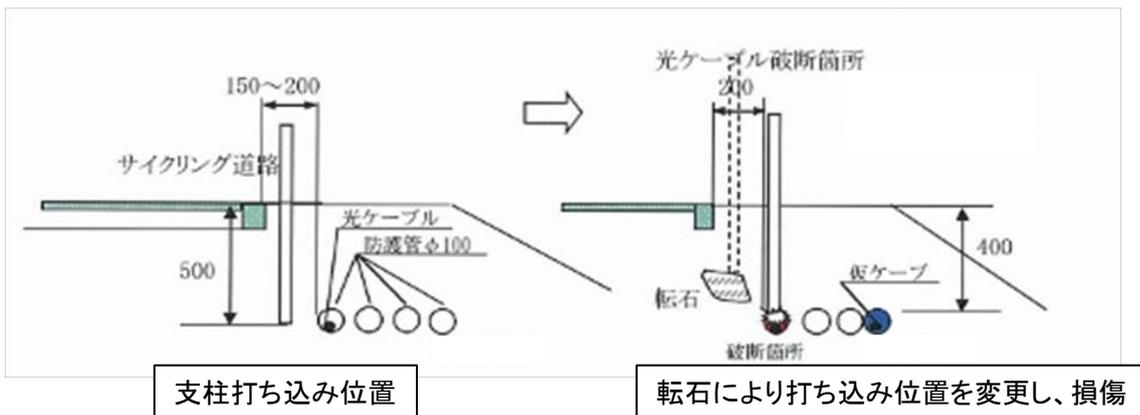
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成20年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	8件 (6件)	15件 (7件)	24件 (9件)	30件 (6件)	40件 (10件)	50件 (10件)	59件 (9件)	68件 (9件)	79件 (11件)	95件 (16件)	105件 (10件)
平成21年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	16件 (14件)	22件 (6件)	26件 (4件)	34件 (8件)	46件 (12件)	52件 (6件)	66件 (14件)	77件 (11件)	81件 (4件)	89件 (8件)	96件 (7件)
平成22年度 累計 (月毎)	7件 (7件)	15件 (8件)	21件 (6件)	31件 (10件)	33件 (2件)	41件 (8件)	49件 (8件)	56件 (7件)	61件 (5件)	70件 (9件)	77件 (7件)	79件 (2件)
平成23年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	9件 (7件)	18件 (9件)	20件 (2件)	27件 (7件)	31件 (4件)	38件 (7件)	46件 (8件)	52件 (6件)	57件 (5件)	65件 (8件)	74件 (9件)
平成24年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	11件 (3件)	22件 (11件)	29件 (7件)	38件 (9件)	52件 (14件)					

※なお、平成21年度工事事故より、国の管理物損傷事故件数を措置の対象としている。



発生日時	平成 24 年 10 月 2 日 (火) 11 時 48 分			天候	晴
工事情報	河川系事務所 一般土木工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	光ケーブル損傷	
事故概要	堤防天端において、仮囲いの支柱打ち込み作業時に、埋設されていた光ケーブルを損傷させたもの。光ケーブルは、民間業者に貸し出しているもの。				
	公衆損害事故-地下埋設物件損傷				

## 事故発生状況



支柱打ち込み位置

転石により打ち込み位置を変更し、損傷



- ・仮囲いの支柱打ち込み作業を人力で実施。
- ・作業に先立ち試掘による配管埋設状況の確認(20mピッチ)を行い、水系により打設位置を明示。
- ・明示されていた打設位置に支柱を打ち込んだところ転石があり、打ち込めなかったため、ずらして支柱を打ち込んだところ光ケーブルを損傷させたもの。
- ・作業始業時にKYにて埋設物に対する注意喚起を実施していた。具体的な作業手順書が作成されておらず、作業方法は口答指示であった。

### 【事故発生原因】

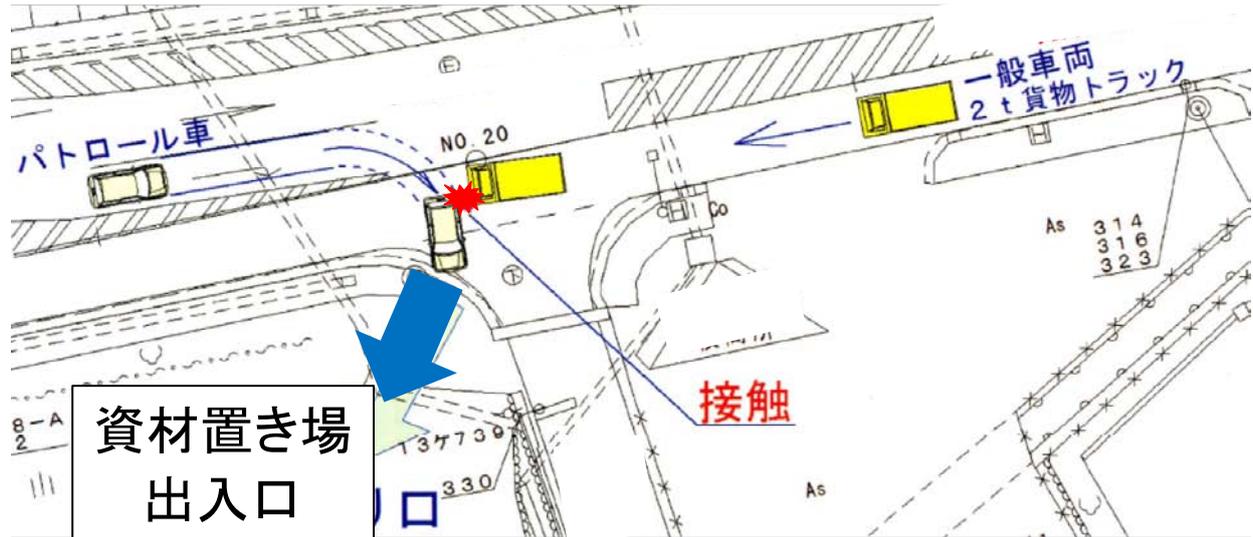
- ・地下埋設物に対する注意喚起が不足していたため。
- など

### 【事故防止のポイント】

- ・地下埋設物近接箇所での作業については、現場条件に合わせた具体的な作業手順を作成し、作業内容を周知・徹底すること。 など

発生日時	平成 24 年 10 月 5 日 (金) 15 時 3 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	一般車両、パトロール車損傷	
事故概要	道路巡回中のパトロール車が右折しようとしたところ、反対車線走行中の直進車と接触し、車を損傷したもの。				
	公衆損害事故-その他 公衆損害事故				

## 事故発生状況



一般車両損傷状況



パトロール車損傷状況

- ・パトロール車は対向車の車間が広がったので、譲ってくれるだろうと思い、右折をした。
- ・資材置場の出入口が狭かったため進入するのに減速した。
- ・対向一般車両は、パトロール車が減速せずに右折すると考え、ブレーキをかけるのが遅れ、接触したもの。

### 【事故発生原因】

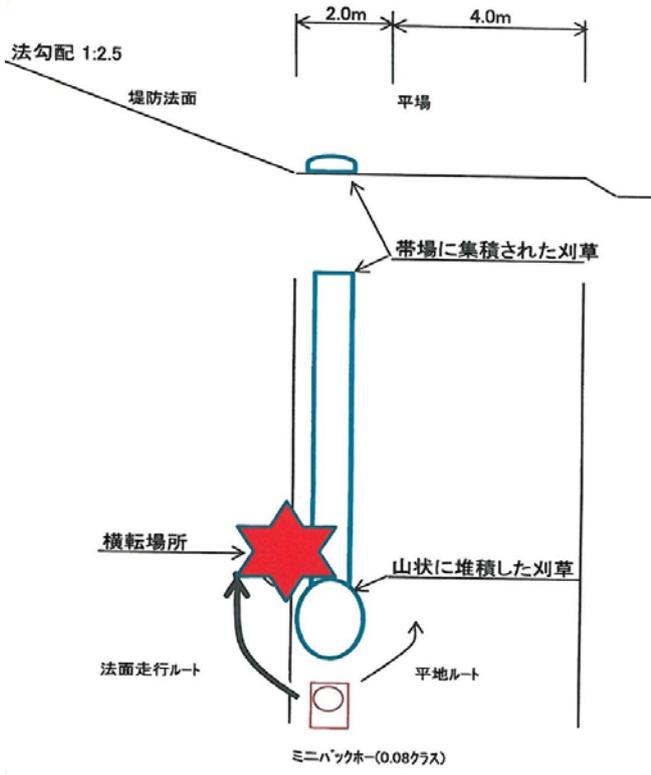
- ・右折時の確認不足によるもの。  
など

### 【事故防止のポイント】

- ・車両安全運転教育の徹底。
- ・思い込みで運転を行わない。  
など

発生日時	平成 24 年 9 月 11 日 (火) 14 時 0 分			天候	晴
工事情報	河川系事務所 維持修繕工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	バックホウ転倒	
事故概要	川表法尻で集草作業中のバックホウが転倒したものを。  その他事故-建設機械等の転落、下敷き、接触、衝突等				

### 事故発生状況



バックホウ転倒状況

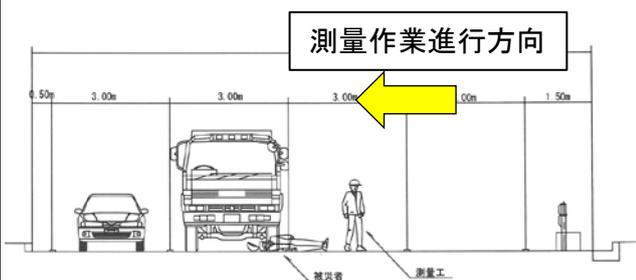
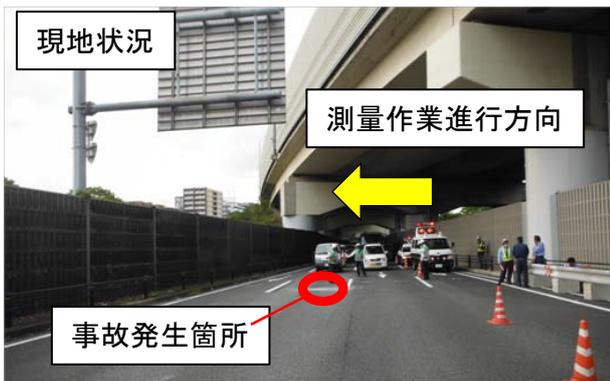
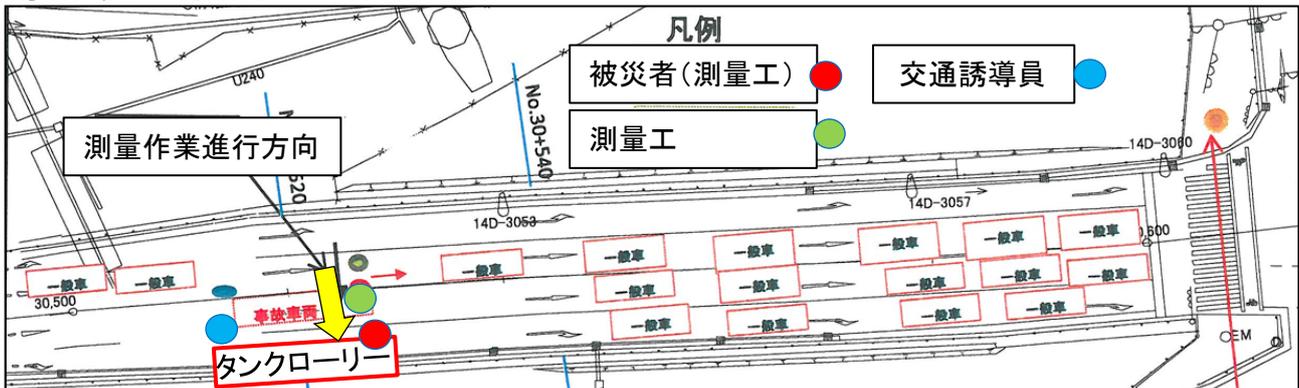
- ・ハサミ付きバックホウ(0.08m<sup>3</sup>)により帯状に集草した刈草を山状にする作業を実施。
- ・1山が完了したので、次の山を作るため山を迂回しようと、法面ルートを走行。
- ・法面を走行中、刈草をよけようとアームをのぼしたところ、バランスを崩し横転したものの。

**【事故発生原因】**  
 ・平場を通らず、法面を走行したため。

**【事故防止のポイント】**  
 ・建設機械作業時の安全教育の徹底。など

発生日時	平成 24 年 10 月 11 日 ( 木 ) 14 時 55 分				天候	晴
工事情報	道路系事務所 アスファルト舗装工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	31	測量工	頭部強打、脳内出血		
事故概要	路上で測量作業中、通行中の一般のトラックに測量作業員1名がはねられたもの。					
工事関係者事故—準備作業、測量調査業務等における人						

### 事故発生状況



- ・下り4車線道路の測量(マーキング作業)を、測量工2名と交通誘導員1名で実施。
- ・赤信号時の一般車両停車後に誘導員の誘導(合図)の下、歩道側の車線から順次マーキングを実施。
- ・2車線目までマーキングを実施し、次の車線に移動するため、交通誘導員は、3車線目を走行していたタンクローリーの静止動作を行ったが、止まらなかったため、次の車を止めてから誘導を行おうとしていた。
- ・その直後、誘導がないまま、測量工が3車線目に移動し、タンクローリーにはねられたもの。
- ・作業は道路使用許可申請書どおりにおこなっていた。

**【事故発生原因】**

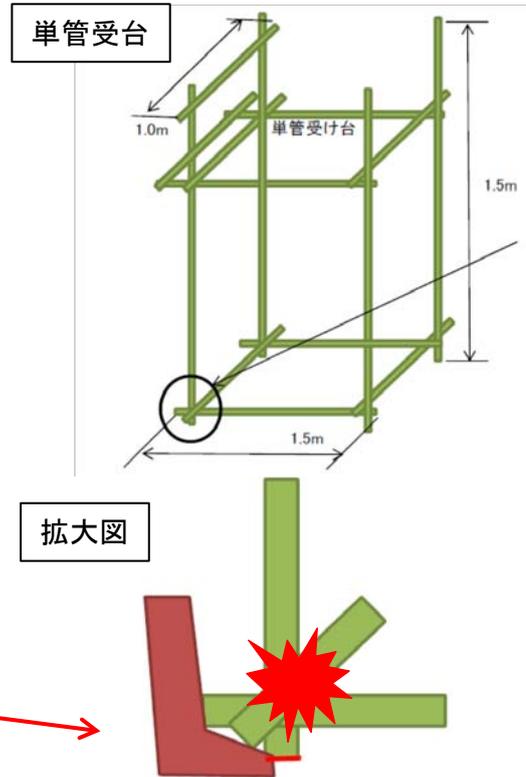
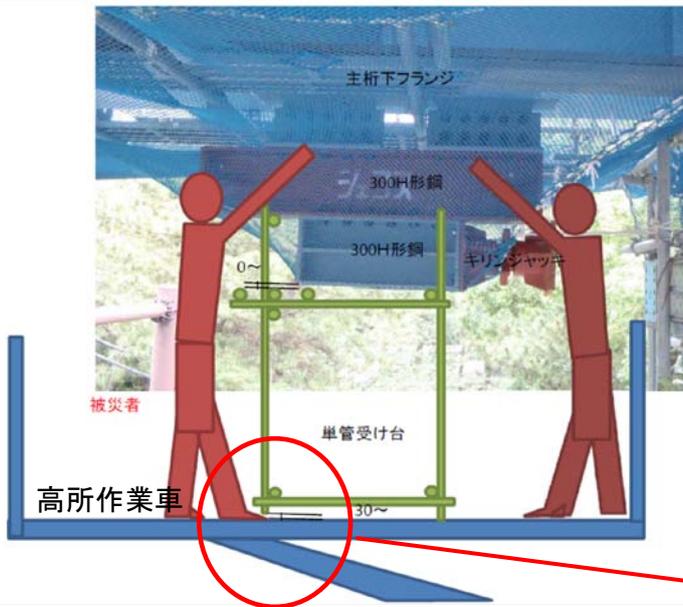
- ・誘導員の誘導に従わず、移動したため。
- ・誘導員の誘導合図に従って作業を行うことが周知徹底されていないため。 など

**【事故防止のポイント】**

- ・現道上作業の安全教育の徹底。
- ・誘導の合図方法を明確にした作業手順書を作成し、作業員に周知徹底を行う。 など

発生日時	平成 24 年 10 月 15 日 (月) 11 時 50 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 鋼橋上部工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	男	43	とび職	左足親指骨折	
事故概要	<p>支承固定治具取り外し作業において、H鋼を単管受台におろした際に、単管受台の下の隙間に入っていた左足親指を挟まれ、骨折したものの。</p> <p style="text-align: center;">工事関係者事故－運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷</p>				

## 事故発生状況



- ・高所作業車に乗って支承固定治具の取り外し作業を実施。
- ・高所作業車上に単管で構築した受台の4点支持のうち1点が高所作業車底面から数センチ浮いており、その間に作業員の左足が入った状態であった。
- ・受台支承固定治具(H形鋼)を単管受台に乗せたときに、荷重がかかり、浮いていた単管パイプと高所作業車に左足親指を挟まれ、骨折したものの。
- ・作業手順書において、受台構築時にかたつきの確認を行う事となっていたが、行われていなかった。
- ・地下足袋を着用しており、安全靴を着用していなかった。

### 【事故発生原因】

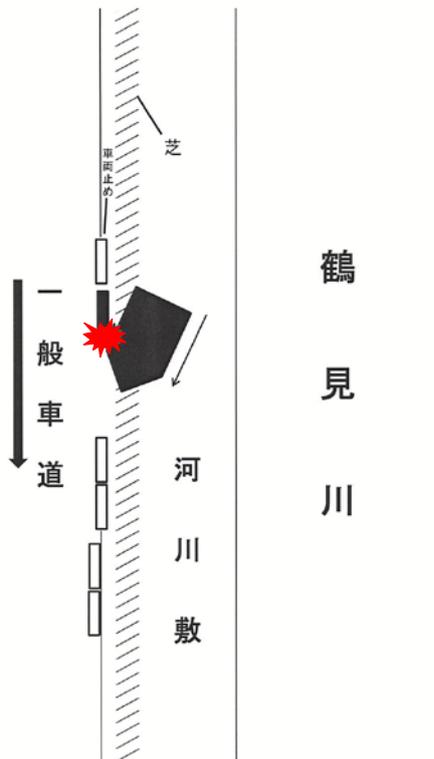
- ・作業手順書どおり作業が行われていなかったため。
- ・安全靴で作業を行っていなかったため。 など

### 【事故防止のポイント】

- ・具体的な作業手順書を作成し、作業内容の周知徹底を行う。
- ・作業内容に応じて安全靴着用の徹底を行う。 など

発生日時	平成 24 年 10 月 15 日 (月) 15 時 45 分				天候	晴
工事情報	河川系事務所 役務					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	-	-	-	官用車損傷		
事故概要	河川敷の出入口で河川用通路脇平場から一般道に出る際、鋭角に出てしまい出口のポールに車両運転席側前ドア下部を接触させ、損傷させたもの。					
	公衆損害事故-その他公衆損害事故					

## 事故発生状況



現地状況



車両損傷状況

・河川敷の河川管理用通路脇平場から一般道に出る際、6基ある車止めのうち、2基しか抜かずに鋭角にでてしまい、抜いていない車止めに車両運転手席ドア下部を接触させたもの。

### 【事故発生原因】

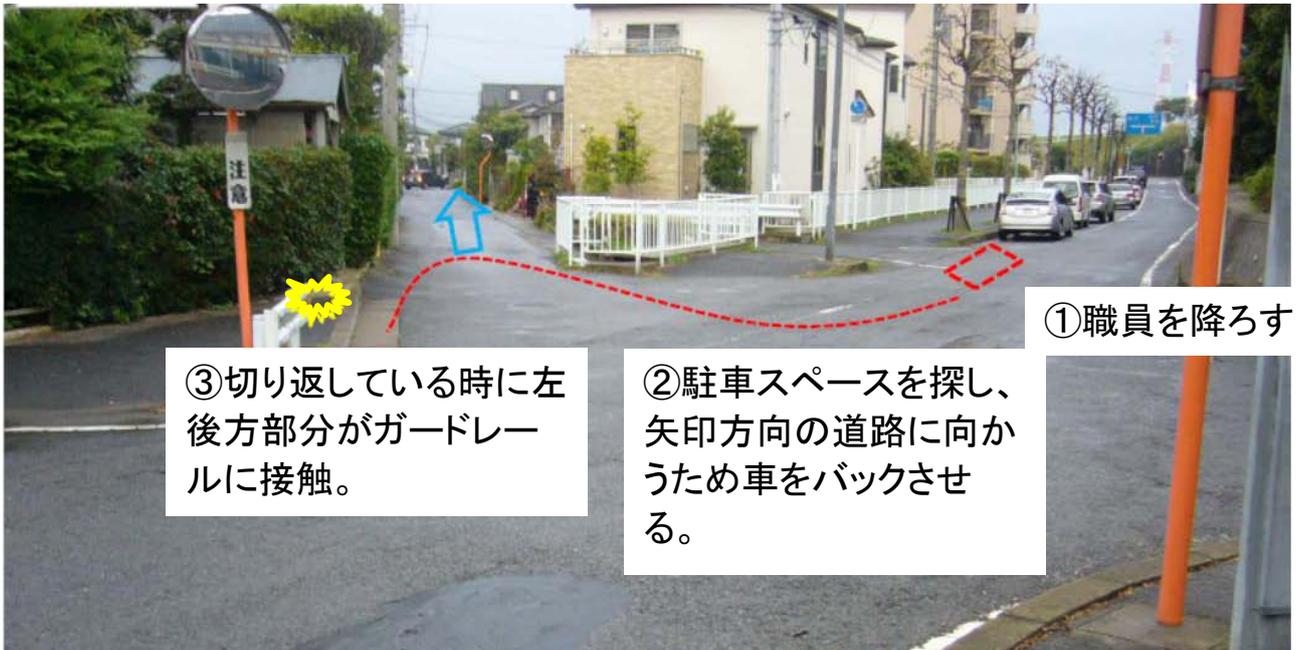
・運転手の右側方確認不足によるもの。  
など

### 【事故防止のポイント】

・車両安全運転教育の徹底。  
・周辺構造物等への注意、確認を行う。  
など

発生日時	平成 24 年 10 月 17 日 (水)			9 時 30 分	天候	曇
工事情報	河川系事務所 役務					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	-	-	-	官用車損傷		
事故概要	バックで切り返しをしていたところ、車両後方のバンパーをガードレールでこすり、車両を損傷させたもの。					
	公衆損害事故-その他公衆損害事故					

## 事故発生状況



・職員を目的地におろした後、駐車スペースを探し中、道路が狭くなっており、停車不可能であったため、バックで切り返しをしていたところ、車両後方のバンパーをガードレールでこすり、車両を損傷させたもの。

### 【事故発生原因】

・運転手の後方確認不足によるもの。

### 【事故防止のポイント】

・車両安全運転教育の徹底。  
・周辺構造物等への注意、確認を行う。

発生日時	平成 24 年 10 月 22 日 (月) 13 時 10 分			天候	晴
工事情報	河川系事務所 役務				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	官用車損傷(2台)	
事故概要	マイクロバスに乗車しようとした見学者の乗車手助けをしようと、車両管理員が運転席から乗車口へ移動したところ、バスが前に動き出し、縦列駐車していた前のマイクロバスに接触し、バスを損傷させたもの。				
	公衆損害事故-その他公衆損害事故				

## 事故発生状況



車両損傷状況(マイクロバス②)



車両損傷状況(マイクロバス①追突車両)

- ・マイクロバスに乗車しようとした見学者（足腰が悪く乗車に苦慮）の乗車手助けをしようと、車両管理員が運転席から乗車口へ移動したところ、バスが前に動き出し、縦列駐車していた前のマイクロバスに接触し、バスを損傷させたもの。
- ・元々サイドブレーキをかけ、停車していたが、車両管理員が移動した際にサイドブレーキに引っかかり、ブレーキが解除されたことが原因と考えられるもの。

### 【事故発生原因】

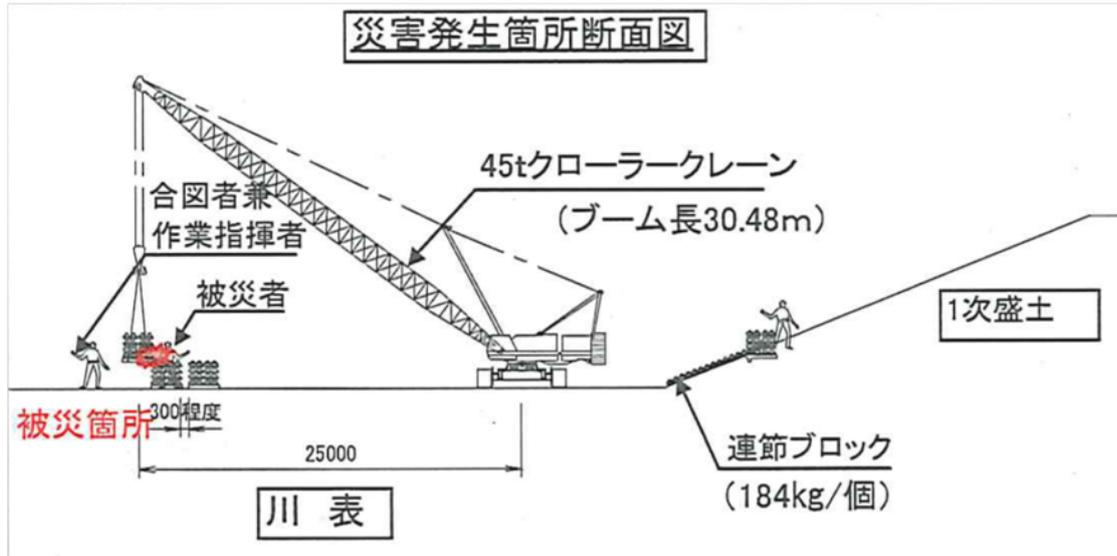
- ・勾配のあるところで、運転席から離れる時にサイドブレーキをかけていることを確認しなかったため。など

### 【事故防止のポイント】

- ・勾配のあるところで、車両を停車する際には、車両が動かないようサイドブレーキを確認し、必要に応じて車止めを使用する。など

発生日時	平成 24 年 10 月 22 日 (月) 10 時 50 分			天候	晴
工事情報	河川系事務所 一般土木工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	男	52	土工	左手小指裂傷(全治2週間)	
事故概要	撤去した護岸ブロックを、クレーンで仮置き場へ移動作業中、積荷の荷振れを止めようとした被災者が、仮置き済みのブロックと積荷の間に左手小指を挟み負傷したもの。				
	工事関係者事故-運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷				

### 事故発生状況



パレットとブロックの山の間に小指を挟んだ

- ・合図者がクレーンオペレータに吊荷を降ろすよう合図を止めた際に、ブームが弾性で上下に揺れ、吊荷が回転し始め、ブロックに接触しそうになった。
- ・作業員が吊荷の回転を止めようとした際に手が滑り、パレットとブロックの山との間に小指を挟んで挫傷したもの。
- ・介錯ロープは使用していなかった。

**【事故発生原因】**  
 ・作業手順書が十分に周知されておらず、吊荷の下に手を入れたため。  
 など

**【事故防止のポイント】**  
 ・作業に応じた安全上の注意及び指示事項の周知・徹底を行う。 など

発生日時	平成 24 年 10 月 23 日 (火)			0 時 0 分	天候	晴
工事情報	道路系事務所 アスファルト舗装工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	21	第三者	左太股打撲、左肘打撲、原付オートバイ損傷		
事故概要	舗装復旧作業において、コンバインドローラーが方向転換時に、規制外にでてしまい、一般車(原付オートバイ)と接触したものの。					
公衆損害事故-公衆損害(第三者)						

### 事故発生状況



一般車(原付オートバイ) 損傷状況

・舗装復旧作業において、コンバインドローラーが方向転換時に、規制外にでてしまい、一般車(原付オートバイ)と接触したものの。  
 ・重機誘導員は、移動が完了する前に、次のタイヤローラーの誘導のため、移動していた。  
 ・数回やり直しを行えば、規制帯内で方向転換が行えたが、1回でやり直そうとしたため、規制帯外へ出てしまった。

**【事故発生原因】**

- ・規制帯外に出たため。
- ・重機誘導員が付いていなかったため。

など

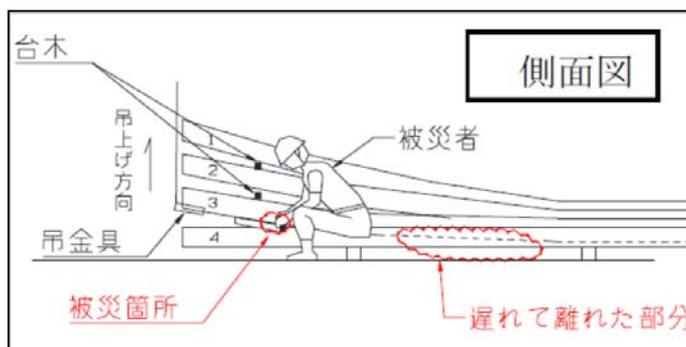
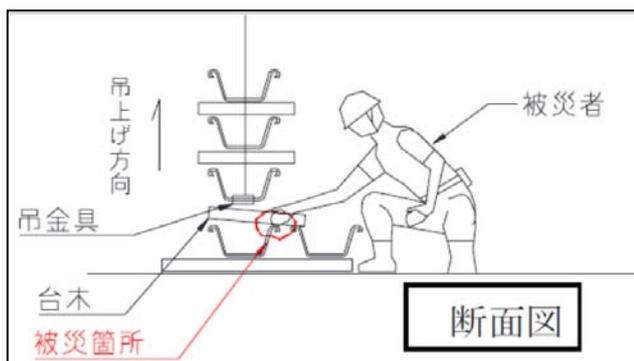
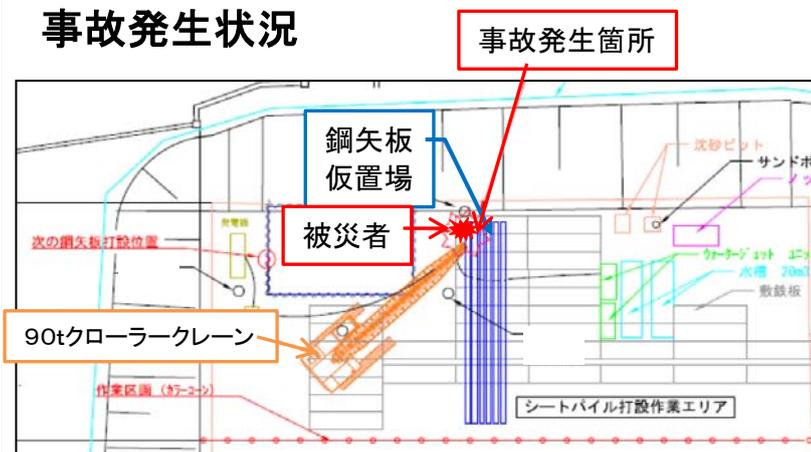
**【事故防止のポイント】**

- ・作業員に安全教育の徹底を行う。
- ・移動が完了するまで誘導員を配置する。

など

発生日時	平成 24 年 10 月 26 日 (金) 14 時 28 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 プレストレスト・コンクリート工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	男	31	とび職	右手指2本損傷	
事故概要	重ねて搬入された鋼矢板に吊るためのガス穴を開けるため、分割しようと1枚ずつ片側を持ち上げ台木を挟んでいたところ、作業員が鋼矢板に指をはさまれ、負傷したもの。 工事関係者事故-運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷				

### 事故発生状況



- ・仮締切工の鋼矢板打設を実施。鋼矢板を吊るためのガス穴を開けるため、重ねて搬入された鋼矢板を1枚ずつ分割する作業を実施。
- ・90tクレーンで鋼矢板端部に取付けた吊治具を吊上げ、出来た隙間に台木を挟もうとしたところ、一部くっついてた部分が遅れて外れ、反動で下側の鋼矢板がバウンドし、その際に、鋼矢板下に入れていた右手先を台木と鋼矢板の間に挟み、負傷したもの。
- ・本作業に関する作業手順書が作成されていなかった。

#### 【事故発生原因】

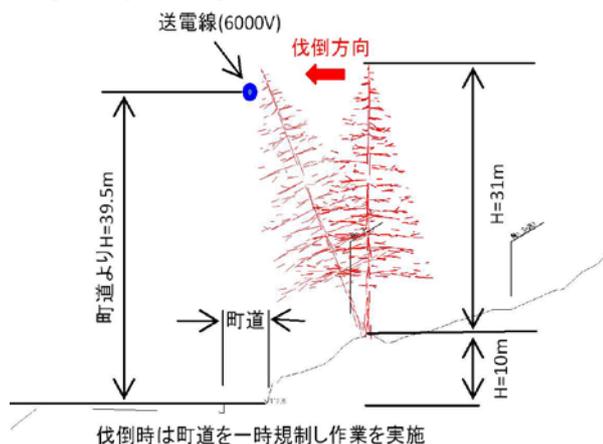
- ・作業手順書が作成されておらず、安全確認が不十分だったため。  
など

#### 【事故防止のポイント】

- ・作業に応じた作業手順書を作成し、安全上の注意及び指示事項の周知・徹底を行う。 など

発生日時	平成 24 年 10 月 27 日 (土) 15 時 20 分			天候	曇
工事情報	道路系事務所 アスファルト舗装工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	ガス管破損	
事故概要	立木の伐採作業において、幹周りの枝処理が完了し伐倒を行ったところ、立木の先端が高圧送電線に接触し、1本を切断したものの。 公衆損害事故—架空線・標識等損傷				

## 事故発生状況



現地状況



- ・立木(樹高:約31m、幹周:約1m)の伐採作業を実施。
- ・幹周の枝処理が完了し、伐倒をおこなったところ、立木の先端が東京電力所有の高圧送電線に接触し、1本を切断したものの。
- ・高圧送電線が高い位置にあるため、当該工事への影響は無いと判断し、管理者との事前協議や位置・高さ関係の確認を行っていなかった。
- ・切断後約10分間程度の停電が発生、送電回路が2系統あり、損傷していない系統にて送電が再開された。

### 【事故発生原因】

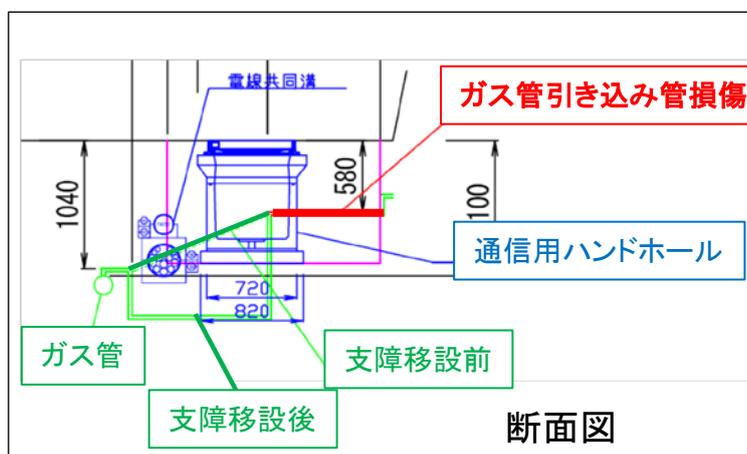
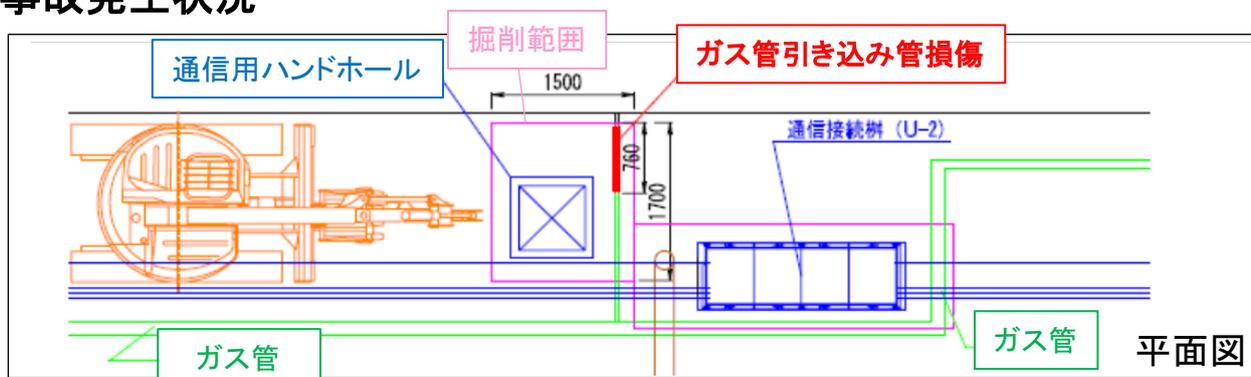
- ・上空支障物に対する事前の確認、対策が行われていなかったため。 など

### 【事故防止のポイント】

- ・現地の確認を行い、支障物を考慮した作業計画を策定し、作業員に内容を周知する。 など

発生日時	平成 24 年 10 月 30 日 (火) 12 時 50 分			天候	曇
工事情報	道路系事務所 アスファルト舗装工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	ガス管破損	
事故概要	電線共同溝の敷設のため歩道を掘削していたところ、ガスの引き込み管を損傷させたもの。				
	公衆損害事故-地下埋設物件損傷				

## 事故発生状況



- ・電線共同溝のハンドホールの据付作業のため、BHで掘削中にガスの引き込み管を損傷させたもの。
- ・ガス管は工事に先行して移設されたものであり、施工業者は管の位置(平面・深さ)を把握しており、朝の朝礼時に作業員に図面を渡し、注意喚起を行っていた。
- ・他の埋設物の埋設シートを80cmの箇所を確認したことから、その深さまでは、機械による掘削が可能と考えて掘削を行い、約60cmの箇所にあったガス管を損傷させた。

### 【事故発生原因】

- ・埋設物近接箇所での掘削に対する安全対策不足によるもの。 など

### 【事故防止のポイント】

- ・埋設物付近での作業については具体的な作業手順を指示し、作業内容を周知・徹底すること。 など